スタティック ルート ブリッジ ドメイン

この章の内容は、次のとおりです。

- スタティック ルート ブリッジ ドメインについて （1 ページ）
- GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する （2 ページ）
- NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジ ドメイン上のスタティック ルートの設定 （2 ページ）
- REST API を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートの設定 （4 ページ）

スタティック ルート ブリッジ ドメインについて

Cisco APIC リリース 3.x では、ファイアウォールの背後にある仮想サービスへのルーティングを可能にする、パーベイシブ ブリッジ ドメイン (BD) でのスタティック ルート設定へのサポートが追加されました。

この機能は、通常の EPG の使用を通して、エンドポイント (EP) がパーベイシブ BD に直接には接続されていない IP アドレスへ到達することを可能にします。

スタティック ルートを設定すると、APIC は、それを BD を使用しているすべてのリーフ スイッチ、およびその BD に関連付けられた契約を有しているすべてのリーフ スイッチに展開します。

サブネット マスクは、1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントしている /32 (IPv6 の場合は /128) である必要があります。これは、パーベイシブ BD に関連付けられている EPG に含まれます。

この機能は、名前の末尾が EX である Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチとそれ以降の機種によりサポートされています (たとえば N9K-C93180LC-EX)。

EP の到達可能性は、APIC GUI、NX-OS スタイル CLI および REST API を使用して設定できます。

GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する

- スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- サブネットマスクが/32 にする必要があります (128/for IPv6) 1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントします。これは、EPG に関連付けられている普及 BD で含まれています。

始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG が作成されます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、**Tenants** > ***tenant-name*** の順にクリックします。

ステップ 2 ナビゲーション ウィンドウで **Application Profiles** を展開し、アプリケーション プロファイル名をクリックします。

ステップ 3 **Application EPGs** をクリックして、スタティック ルートの EPG を展開します。

ステップ 4 **Subnets** を展開して、スタティック ルートのサブネットを右クリックし、**Create Endpoints Behind EPG Subnet** を選択します。

ステップ 5 エンドポイントの **NextHop IP Address** を入力して、**Update** をクリックします。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジ ドメイン上のスタティック ルートの設定

パーベイシブ ブリッジ ドメイン (BD) でスタティック ルートを設定するには、NX-OS スタイルの次の CLI コマンドを使用します:

始める前に

テナント、VRF、BD および EPG が設定されています。

- スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。

- サブネットマスクが/32 にする必要があります (128/for IPv6) 1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントします。これは、EPG に関連付けられている普及 BD で含まれています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**configure** 例： `apic1# configure`	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	**tenant** *tenant-name* 例： `apic1(config)# tenant t1`	テナントを作成するか、テナント設定モードに入ります。
ステップ 3	**application** *ap-name* 例： `apic1(config-tenant)# application ap1`	アプリケーション プロファイルを作成するか、アプリケーション プロファイル モードに入ります。
ステップ 4	**epg** *epg-name* 例： `apic1(config-tenant-app)# epg ep1` <> <A.B.C.D> [scope <scope>]	EPG を作成するか、EPG 設定モードに入ります。
ステップ 5	**endpoint ip***A.B.C.D/LEN* **next-hop** *A.B.C.D* [scope *scope*] 例： `apic1(config-tenant-app-epg)# endpoint ip 125.12.1.1/32 next-hop 26.0.14.101`	EPG の背後にエンドポイントを作成します。サブネットマスクは /32 で (IPv6 の場合は /128)、1 つの IP アドレスまたは1つのエンドポイントをポイントしている必要があります。

例

次の例は、EPG の背後にあるエンドポイントを設定するコマンドを示しています。

```
apic1# config
      apic1(config)# tenant t1
      apic1(config-tenant)# application ap1
      apic1(config-tenant-app)# epg ep1
      apic1(config-tenant-app-epg)# endpoint ip 125.12.1.1/32 next-hop 26.0.14.101
```

REST API を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートの設定

- スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- サブネットマスクが/32 にする必要があります (128/for IPv6) 1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントします。これは、EPG に関連付けられている普及 BD で含まれています。

始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG が作成されています。

手順

普及ゲートウェイで使用される BD のスタティック ルートを設定するには、次の例など post を入力します。

例：

```
       <fvAEPg name="ep1">
    <fvRsBd tnFvBDName="bd1"/>
           <fvSubnet ip="2002:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7344/128"
ctrl="no-default-gateway"   >
               <fvEpReachability>
                   <ipNexthopEpP  nhAddr="2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7343/128"
/>
               </fvEpReachability>
           </fvSubnet>
       </fvAEPg>
```